

2019年4月12日

**「第五回花粉飛散傾向」を発表！3月末までの総飛散数や症状のつらさを集計
 広範囲で花粉飛散ピーク終盤、5月上旬までにシーズン終了へ
 ～西日本の多い所では例年比約4倍の花粉を観測、症状も例年より重い傾向に～**

株式会社ウェザーニューズ(本社:千葉市美浜区、代表取締役社長:草開千仁)は、3月末までのスギ・ヒノキ花粉の飛散状況と最新見解をまとめた「第五回花粉飛散傾向」を発表しました。独自の花粉観測機「ポールンロボ」で観測した飛散量は、各地で例年に比べて多く、東海以西では2倍～3倍、多い所では約4倍に達し、症状も例年に比べて重く感じた方が多い傾向となりました。現在、広範囲で花粉の飛散ピークを迎えており、九州から関東はヒノキ花粉、東北ではスギ花粉が飛散しています。花粉の飛散は西から徐々に終息し、来週いっぱいピークを越える見通しです。その後、5月上旬までにほとんどのエリアで花粉の飛散が終了するとみています。

本発表ならびに花粉の飛散状況、日々の飛散予報は、スマホアプリ「ウェザーニューズタッチ」やウェザーニューズウェブサイトから確認できます。なお、花粉飛散量を含めた花粉シーズン全体の振り返りは、6月頃の発表を予定しています。

※例年:症状や花粉飛散量の例年は2013年～2017年の5年平均
 ※平年:天候の平年は1981年～2010年の過去30年間の平均

毎日の花粉予報や花粉観測データはこちら		本プレスリリースの素材ダウンロードはこちら
スマホアプリ「ウェザーニューズタッチ」をダウンロード後「花粉 Ch.」にアクセス	ウェザーニューズウェブサイト「花粉 Ch.」 https://weathernews.jp/s/pollen/	ウェブ版プレスリリース「第五回花粉飛散傾向」 https://jp.weathernews.com/news/27294/

◆第五回花粉飛散傾向

＜現在の飛散状況:広範囲で花粉飛散ピーク、九州～関東はヒノキ花粉、東北はスギ花粉が中心＞

現在、西日本や東海、関東はスギ花粉の飛散がほぼ終了し、ヒノキ花粉が飛散しています。九州から関東ではヒノキ花粉、東北ではスギ花粉の飛散ピークを迎えています。

北陸ではスギ花粉に代わってヒノキ花粉が飛び始めていますが、北陸や東北で春に飛散するのは主にスギ花粉で、ヒノキ花粉は元々少ない傾向にあります。

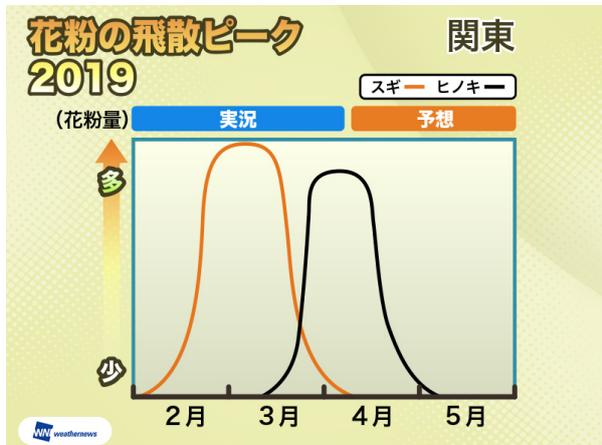
一方、北海道ではまだシラカバ花粉の飛散は始まっていません。



＜今後の飛散予想:まもなく花粉ピーク越え！5月上旬に各エリア花粉シーズン終了へ＞

4月後半は周期的に天気が変わり、気温はアップダウンするものの、期間を通してみると平年並になる見込みです。九州から東北における花粉の飛散量は徐々に減少し、来週いっぱいピークを越えるとみえています。その後、5月上旬までにほとんどのエリアで花粉の飛散が終息する見込みです。

これから花粉シーズンを迎える北海道でも、天気は周期的に変化します。早ければ4月下旬に道南や道央の一部でシラカバ花粉が飛び始める可能性があります。GW中には飛散が本格化する可能性があるため、敏感な方は早めに対策をしておくで安心です。



◆全国的に飛散量が多く、西日本の多い所では例年比約4倍の花粉を観測

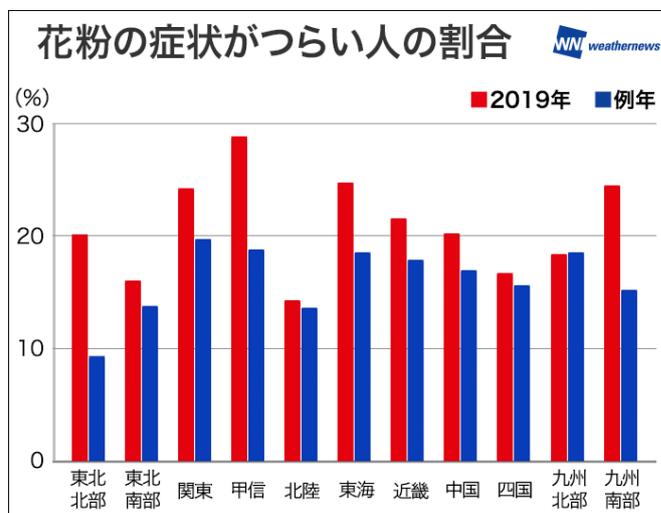
ピーク到来が早かったせい？症状も例年より重い傾向に

ウェザーニューズ独自の花粉観測機「ポールンロボ」による花粉観測によると、3月末までの花粉飛散量は、九州から東海では例年より多い～非常に多い、関東甲信から東北では例年並～例年よりやや多い結果となりました。東海以西では2倍～3倍、多い所では約4倍の花粉を観測した地域もあり、飛散量の多さが顕著になっています。

2月、3月ともに平均気温は平年を上回り暖かい日が多かったものの、断続的な寒気の南下や低気圧の通過に伴って雨や雪の日もあり、飛散量が多い日と少ない日が周期的に訪れるメリハリの利いた飛散パターンでした。今年は、2月上旬に関東や九州でスギ花粉の飛散が始まり、2月中旬以降に15℃を上回る日が増えて西・東日本で本格的な飛散、スギ花粉のピークに至りました。西・東日本におけるスギ花粉の飛散は3月末には終息に向かい、現在はヒノキ花粉が多く飛散しています。東北北部でも3月上旬にはスギ花粉の飛散が始まり、現在も広範囲で本格的な飛散が続いています。

今年のスギ花粉は、ほぼ全国的に例年より数日～1週間前後早く飛散が本格化しました。また、3月中旬は、寒の戻りにより飛散が抑えられた時期があったため、スギ花粉のピーク終了は例年並の時期となり、結果としてピーク期間が長くなりました。

花粉症の症状は、東日本を中心に例年に比べて重い傾向が顕著となっています。これは、花粉症対策の準備が不十分なまま飛散量が増加し、ピーク期間も長かったため、つらく感じた方が多いのかもしれません。



上図：スマホアプリ「ウェザーニュースタッチ」の『花粉 Ch.』に2019年2月1日～3月31日までに花粉症のユーザーから寄せられた症状報告(のべ 58,283 通)のうち、“非常に辛い”“辛い”の回答を合計し、割合で表示したもの

◆都道府県ごとの花粉飛散量と症状、花粉飛散時期

都道府県	2/1～3/31のつらい症状報告の割合(実況)		2/1～3/31の花粉飛散量(実況)		花粉シーズン開始日	花粉シーズン終了日(予想)
	2019年(%)	例年(%)	2019年(個)	例年比(倍)		
北海道	—	—	—	—	4月下旬	6月中旬
青森県	13	9	2286	1.2	3/6	5月上旬
岩手県	34	5	3090	1.5	3/3	5月上旬
秋田県	5	14	1343	1.0	3/2	5月上旬
宮城県	15	14	4067	1.3	2/21	5月上旬
山形県	18	14	2873	1.4	2/24	5月上旬
福島県	16	13	5658	1.3	2/21	5月上旬
茨城県	19	23	5127	0.9	2/7	5月上旬
栃木県	28	19	5391	1.1	2/7	5月上旬
群馬県	25	17	5464	0.9	2/7	5月上旬
埼玉県	28	22	4799	0.9	2/7	5月上旬
千葉県	24	19	3217	1.0	2/7	5月上旬
東京都	24	20	4216	1.2	2/7	5月上旬
神奈川県	23	19	3865	1.1	2/7	5月上旬
山梨県	44	22	5214	1.1	2/17	5月上旬
長野県	22	15	3472	1.1	2/18	5月上旬
新潟県	14	8	3464	1.7	2/24	5月上旬
富山県	10	15	5243	1.8	2/22	5月上旬
石川県	27	20	5517	2.3	2/21	5月上旬
福井県	10	11	5365	2.1	2/21	5月上旬
静岡県	24	18	7391	1.9	2/12	5月上旬
愛知県	26	21	4802	1.9	2/17	5月上旬
岐阜県	24	15	5452	2.3	2/17	5月上旬
三重県	23	20	6357	2.6	2/17	5月上旬
滋賀県	24	22	3336	2.1	2/18	5月上旬
京都府	21	17	2644	1.9	2/18	5月上旬
大阪府	22	18	2789	1.8	2/18	5月上旬
兵庫県	24	17	2855	1.7	2/18	5月上旬
奈良県	17	17	3399	1.7	2/18	5月上旬
和歌山県	18	17	4045	3.1	2/17	5月上旬
岡山県	16	13	2574	1.7	2/18	5月上旬
広島県	18	18	3131	1.5	2/17	5月上旬
鳥取県	9	14	4376	2.8	2/18	5月上旬
島根県	15	15	3118	2.0	2/18	5月上旬
山口県	38	24	5154	2.3	2/7	5月上旬
徳島県	19	16	3201	1.2	2/18	5月上旬
香川県	16	9	3128	2.4	2/17	5月上旬
愛媛県	18	13	5482	3.2	2/12	5月上旬
高知県	9	25	4553	2.2	2/17	5月上旬
福岡県	21	21	4056	1.8	2/7	5月上旬
佐賀県	11	23	5999	3.7	2/7	5月上旬
長崎県	18	18	4530	2.0	2/7	5月上旬
大分県	11	18	7178	2.6	2/7	5月上旬
熊本県	24	14	4411	2.4	2/7	5月上旬
宮崎県	25	17	3480	1.3	2/17	5月上旬
鹿児島県	25	13	3845	2.4	2/17	5月上旬

※北海道はまだ飛散開始前。沖縄は目立った花粉の飛散がないため除く

※花粉シーズンの定義: 周辺の3割以上のポールンロボが花粉10個以上、2日観測した日を「花粉シーズン開始」、周辺の7割以上のポールンロボの観測数が花粉10個以下になった日を「花粉シーズン終了」とする。ウェザーニュース会員からの症状報告も加味している。

※今年の4/11以前の日付は、実際の花粉シーズン開始日(速報)。花粉シーズン終了後、飛散経過を考慮した検討を行う。